

# The Whisper from Amherst

## エミリーのささやき

I, my, me, mine, you, your, you, yours, he, his, him, his, she, her, her, hers ...

中学生のころ、英語の時間に暗記した方もいらっしゃるのではないのでしょうか。「代名詞」と呼ばれる語群で、一度登場した名まえ（誰かさん）の代わりに使われる詞と解釈してしています。あくまで、一度登場した人物の名まえが、次に言及するときから「その人は」という意味でsheやheが用いられるのであって、いきなりshe(彼女がね、...)から話が始まったとしたら、「she(彼女)ってだれ？」と聞きたくなるでしょう。

エミリーの作品の中に、そのsheから始まる詩がありますので、今回はその詩を紹介します。さて、sheとはいったいだれなのでしょう。なぞなぞのつもりでお読みください。

### ‘She died at play’

She died at play,	彼女は遊びまわって死んだ
Gambolled away	借りた移ろいやすい時間を
Her lease of spotted hours,	はしゃぎまわって使ってしまった
Then sank as gaily as a Turk	それから花のベッドに眠るトルコ人のように
Upon a Couch of flowers.	楽しそうに横になった

Her ghost strolled softly o'er the hill	昨日も 今日も
Yesterday, and Today,	彼女の亡霊が丘のうえを軽やかに散歩している
Her vestments as the silver fleece —	服は銀色の羊毛
Her countenance as spray.	顔は光の乱射(スプレー)

※ o' er : over

(思潮社「エミリー・ディキンソンを読む」岩田典子 より)